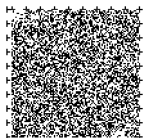


長谷委員提出資料



令和3年1月22日

公募委員

長谷 久枝

障害者施策推進協議会第4回専門部会資料への意見

○ 障害者支援において最も大切なことは、障害者の自立であると考えます。

自立のためには適切な支援が必要なのですが、コロナウイルス対策で東京都も財政が逼迫している中では、今後どれほどの支援が見込めるか予想が付きません。

そのような状況の中でも、できる限りグループホームを増やし、グループホームに従事する人々を確保してゆくことが、今後の課題であると思います。これは山下委員提出資料における18歳以上の障害者のサービスにも繋がり、今後の障害者の親世代の高齢化を考えた時には、最重要課題になると考えます。

○ 障害者への差別については、理解を深めるための啓発のみでは世論に広めることは難しいと思います。コロナウイルスの感染拡大に伴い貧困層が増えるとともに、弱者がより弱いものを差別するという悪循環が、世間に蔓延している今現在、趣旨は違ってきてしまっていますが、まずは貧困層に目を向け、貧困層対策を行った上で差別対策をしなければ根本的な解決は望めないような気がします。

○ 障害者への理解促進では、やはり、幼少期からの取り組みが重要ではないかと考えられます。できるものならば、ある程度の知識を持った人々が小中学校へ出向き、理解促進に向けての講義等を行うことが有効ではないかと考えます。

幼少期から障害者と触れ合うことの意味は、大きなものがあると考えられます。

○ 障害者の支援というだけでなく、今では高齢者にとっても、あるいは認知症患者にとってもグループホームは欠かせないものとなりつつあります。

財政が許す限り、市区町村と連携を図り、都内各市区町村にできるだけ多くのグループホームを作り、運営するための制度を早急に整えることで、これから増加するであろう高齢化した障害者、高齢者、認知症患者に対応する体制を整えることが高齢化社会を見据えた対策になるかと思えます。

○ 虐待通報などの受付に関しては知らない人も多く、より多くの人に知らせるための対応も早急に解決しなければならない課題と思われれます。

虐待に関しても障害者だけではなく、児童、高齢者への虐待も懸念されるところがあります。障害者に限定するのではなく児童や高齢者にも配慮した、横に繋がりのある制度の構築が望まれるところではないでしょうか。

○ 障害者の施策に関しては、親子共々が高齢化してゆくことは否めません。親を亡くした後の対策もまた、早急に検討しなければならない課題であると考えられます。

特に障害者を家庭でみている人々にとっては、限られた時間の中で解決しなければならない問題を数多く抱え、さらに自身の健康問題にも直面することがあつたりすれば、具体的な施策を早急に打ち出してほしいと願っているに違いないと思います。

